

シンポジウム

シンポジウム19

成人先天性心疾患の不整脈

座長:

丹羽 公一郎 (聖路加国際病院)

簀 義仁 (昭和大学横浜市北部病院)

Sat. Jul 18, 2015 8:20 AM - 10:20 AM 第3会場 (1F ペガサス C)

III-S19-01~III-S19-06

所属正式名称: 丹羽公一郎(聖路加国際病院心血管センター)、簀義仁(昭和大学横浜市北部病院 循環器センター)

[III-S19-05]Midterm Result of Arrhythmia Treatment in TCPC

Conversion Patients

○新井 禎彦, 佐野 俊二, 笠原 真悟, 小谷 恭弘, 黒子 洋介, 藤井 泰宏 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 心臓血管外科)

Keywords:心房性不整脈, 単心室症, TCPC conversion

【背景、目的】 Failed Fontanに対しての TCPC conversion症例には心房性不整脈が適応理由のものが含まれる。それらの症例の本院における経験を検討し、介入の際の不整脈治療を考察した。【方法】1996年から2014年の間に18歳以上の成人症例に TCPC Conversionを実施した19例のうち心房性不整脈が適応理由となった9例についてその手術成績を検討した。手術時年齢は19才から36才 男:女 5:4であった。診断は PA/IVS 1例、TA4例、多脾症1例、その他 3例であった。【結果】全例 PTFE人工血管をもちいた extracardiac typeに conversionした。7例に fenestrationをおいた。前回フォンタン手術の術式は1例が Lateral Tunnel, 8例が Atrio-Pulmonary typeであった。同時に実施した不整脈手術は PV isolation単独またはメイズ手術を6例に実施、不整脈に対する手術介入なし3例であった。そのうち2例は初期の症例であった。心タンポナーデ後の低酸素脳症による早期死亡1例を失った。TCPC conversion後早期死亡1例を除く 8例全てで洞調律を回復した。遠隔期に2例に対してペースメーカー埋め込みを要した。【結論】 TCPC conversionにおける不整脈手術として頻脈性心房性不整脈に対してメイズ手術を実施し良好な改善を得た。TCPC Conversionの適応時期が早まる傾向があり、心房筋組織の荒廃が進む以前に多くの手術が実施される現状では心房性不整脈を伴う症例において積極的にメイズ手術を同時施行することが有用である可能性が示唆された。